

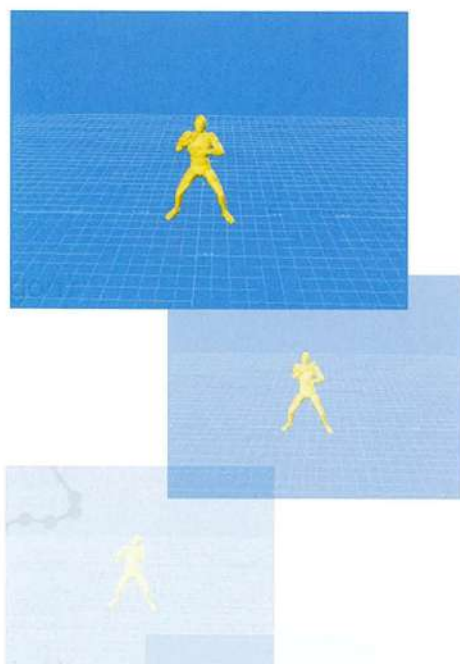
同志社大学

文化情報学部

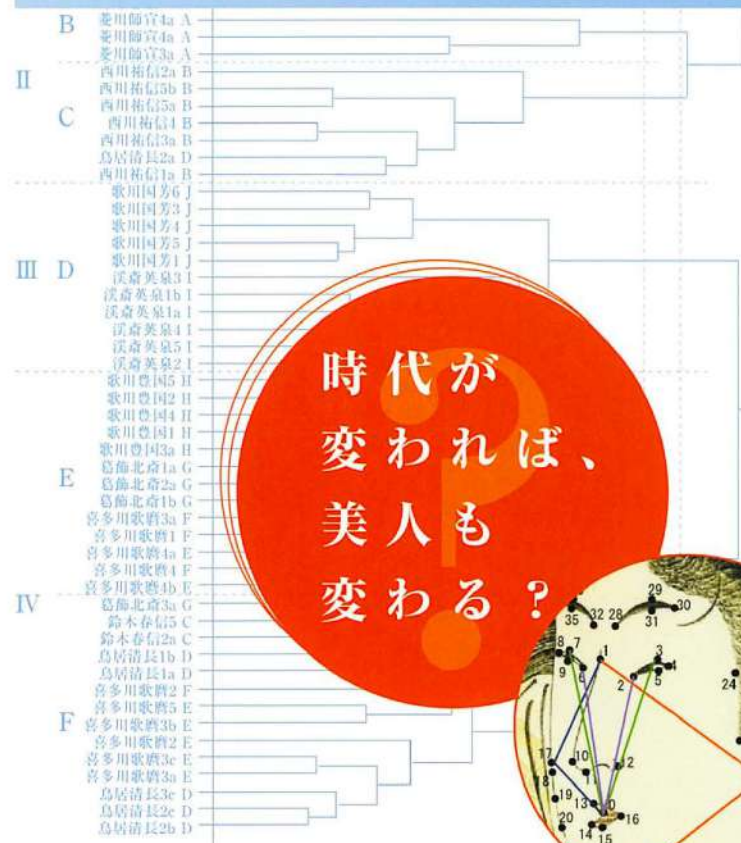
好奇心を刺激する未知のステージ



Faculty of Culture and Information Science
Doshisha University
KYOTO, JAPAN



文化情報学という新しい世界



時代が
変われば、
美人も
変わる？

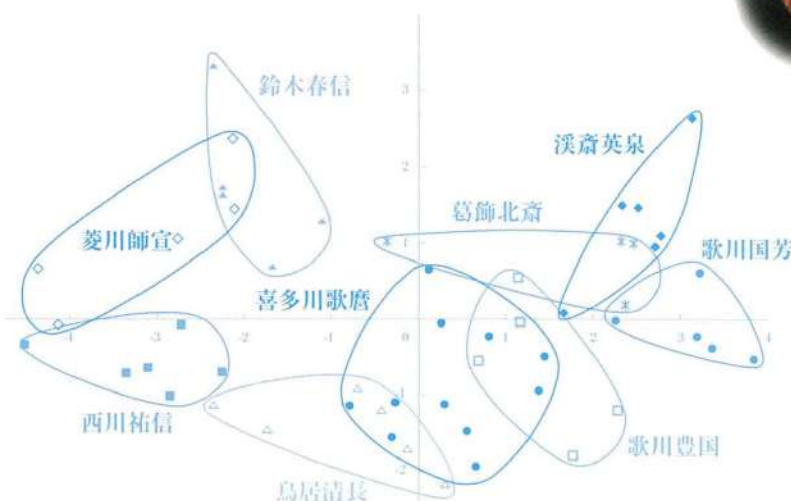
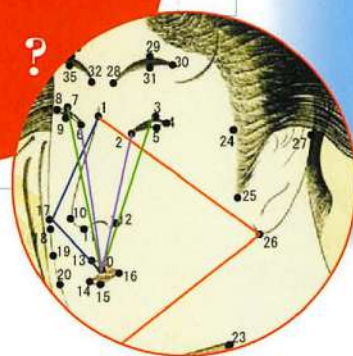
浮世絵に描かれた美人の顔を
データ化し数量分析すると、
時代が進むにつれて美人の顔が丸顔から
面長へと変化していったことがわかります。

Research

村上 征勝

(専門：文化計量学・データ科学)

www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_17/



尽きることのない知的好奇心

Faculty of Culture and Information Science

データを収集・分析し現象を理解する データサイエンスという手法で「文化」を学びます。

人間が生み出す言語、思想、宗教、芸術、建築…。

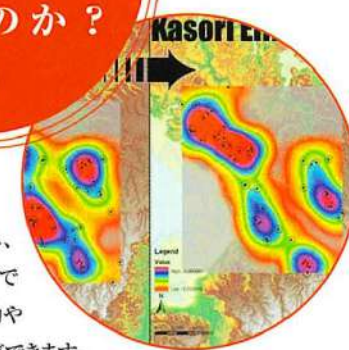
文化情報学部では、人間の営みをすべて「文化」とし、データサイエンスの手法で「文化」の理解を試みます。

人文・社会学系のテーマへ自然科学的な手法によってアプローチする文理融合型の新しい学部です。

高度情報化社会のもとで、多彩な文化・価値観を持つ人々との相互理解に
必要な情報解析や思考法を身につけることができます。

なぜ誤解は
生じるのか？

ヒトはいつ
“けちん坊”に
なったのか？



遺跡や発掘調査の情報を
時空間情報システムに取り込み、
人類の生態をサイバーワールドで
再現すると、原初的な経済行動や
その時代の姿を描き出すことができます。

Spatio-temporal 時空間情報システム information system

津村 宏臣

(専門：時空間情報科学・人類学)

www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_14/

Research

Site Distribution
Buffer from Site
Distance
Drainage Image
Aspect Model
Slope Model
Contour
DEM

文化

言語・思想・宗教・文学・
歴史・考古・美術・工芸・
音楽・舞踊・伝統芸能・
演劇・映画・建築

データサイエンス

新しい
知の
発見

文化から、人間の本质に迫る。

Data Science

文理融合の視点から、新しい知が生まれる。

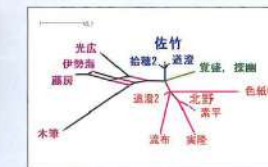
研究対象は、人が生み出す「文化」すべて。
文化に関する学問と自然科学を融合させ、
人間の知的活動に関して新たな“知の発見”を探究する—
それが「文化情報学」。

過去に遡り、
現在への流れを捉える

自然科学、人文科学など人間の営みに現れる「系統」を、現在から過去に向かって歴史を復元し、文献を時系列に沿って数理的に解析することで進化発展のダイナミズムを感得します。

文化の
系統

矢野 環
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_09/

数量解析で総合的な
新しい見解を

歴史遺産を構成する形や色や素材などの様々な要素を、コンピュータを使って、デジタル化したりヴァーチャル化することで、膨大な歴史遺産情報を総合的に分析・解釈しています。

歴史
遺産

鋤柄 俊夫
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_01/

生命現象のメカニズムに
問いかける

例えば、農耕文化がヨーロッパに広がったプロセスなど、人間を含む生物集団が示す様々な生命現象に、数理モデルを用いた理論的な解析を行い、新たな理解につなげています。

文化の
生態

重定 南奈子
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_18/

Faculty of Culture and Information Science

>>> www.cis.doshisha.ac.jp

若宮 はるか さん
(2005年度入学)

小さい頃から好きな音楽。その物理的な情報（音律や音の波形）や非物理的な情報（人に与える感情面での影響）を分解して研究したいと思います。

読書好きの私ですが、ある時期から漫然と読むのではなく、客観的な方法で文学作品を解析したいと思うようになりました。文化情報学部で、これから計算機プログラムによって作品を色々な角度から数量的に分析してみたいです。

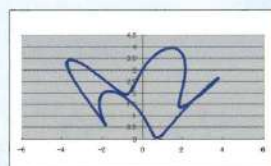
鈴木 祥司 さん
(2005年度入学)

微分方程式で
何かが見えてくる

新聞やインターネットなど、情報に含まれる多くのデータを「数える」ことから始め、自然現象や社会事象を微分方程式でモデル化し解析することで、現象のメカニズムを探ります。

社会
自然と

浦部 治一郎
研究室



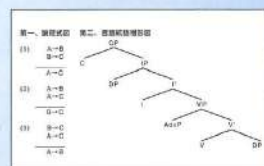
www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_15/

ことばで世界を把握する
人間の心とは

人は自分を取り巻く「世界」の出来事をどのように把握しているかという問いを、人間が持つ属性の一つ「ことば」に反映される言語システムを解読することによって解明します。

言語

沈 力
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_19/

思考と判断を左右する
「表現」とは

地図や図解、絵などのグラフィック表現をはじめ、およそ「表現」とよばれるものが、それを使う人の理解、思考、判断にどのように影響するのかを研究します。

表現
グラフィック

下嶋 篤
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_04/

文化を最先端システムで
表現しよう

あたかも自分が本物の空間にいるかのような超リアルな「ヴァーチャル・リアリティシステム」などのシステムが、

文化の表現にもたらす大きな変革や、ヴァーチャル・リアリティ空間が人間に与える効果や影響を研究します。

ヴァーチャル・リアリティ

杉本 裕二
研究室



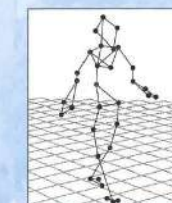
www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_16/

「からだ」から
人の気持ちは読めるのか

他者の身体の様子から受け取る印象やイメージなど、漠然としたものを読み取る力「感性」の正体を、様々な学問領域を超え、自然科学、人文科学、芸術を統合して研究します。

身体

阪田 真己子
研究室



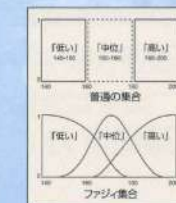
www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_03/

人に近づく
脳型コンピュータの可能性

人の主観や感性表現に見られる言葉の「あいまいさ」を数量化するファジ理論の研究から、人の脳と同じように考える脳型コンピュータシステムの可能性を探っています。

脳型コンピュータ
ファジ理論と
ファジモデリング

菅野 道夫
研究室



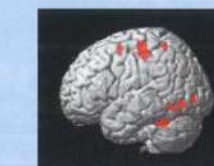
www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_20/

人間を情報システム
と捉える

行動における反応時間やエラー率などの指標や、fMRIなどにより計測された脳活動の信号を、データとみなして解析をおこなうことで、人間という情報処理システムの仕組みを明らかにします。

人間
心理

杉尾 武志
研究室



www.cis.doshisha.ac.jp/professor/n_05/

文理融合の柔軟な発想力で切り開く多彩なステージ

高度な専門能力を養う科目群

展開科目

文系、理系の垣根を超えた
融合的科目で、様々な文化事象を
解明するスキルを身につけます。

データサイエンスの実践力

深い洞察力

柔軟な発想力

基幹科目

データを正しく収集、分析し、
新しい情報や知識を創り出す
データサイエンスの素養を
身につけます。

情報解析手法

文化解析手法

言語解析手法

導入科目

コンピュータや情報倫理から文化まで。
データサイエンスの基本的な
知識を修得します。

データサイエンスの基礎知識

解析ツールの知識

人間と文化に関する知識

教養教育科目

同志社大学の全学共通教養教育科目だけでなく、
他学部、他大学の設置科目なども履修することができます。

一般教養 基礎学力

- 教育職員免許 ■ 社会調査士 ■ 図書館司書
- 学校図書館司書教諭 ■ 博物館学芸員

- マスコミ関連 ■ 学芸機関
- メーカー ■ 政府機関 ■ 多国籍企業

「数学、情報（高校のみ）」を担当する 中学校・高等学校の
教育職員免許をはじめ、博物館などの業務に携わる博物館
学芸員資格、様々な社会調査のエキスパートを目指す社会
調査士など、専門的な資格の取得が可能です。

資格取得でスペシャリストになる

新聞社、テレビ局などのマスコミ関係から、博物館、埋蔵
文化財センターなどの学芸機関、メーカーなどの調査部門や
マーケティング部門、政府機関や多国籍企業など、時代の
先端を行くグローバルな仕事に活躍の場が広がっています。

新しい視点で文化の先端を行く



論理的
思考力

情報分析
能力

問題解決
能力

高度なデータ活用の知識と実践力は、商社、銀行などの情報
分析部門や、多量のデータを扱う官庁、地方自治体をはじめ、
シンクタンク、コンサルティングなどの社会調査関連業に
欠かせないスキルとして、大きな期待が寄せられています。

データ分析で情報社会を支える

- 商社 ■ 銀行 ■ 官庁 ■ 地方自治体
- シンクタンク ■ 社会調査関連業

Employment

力が身につくカリキュラム

<http://www.kyushu-u.ac.jp/curriculum/>

コアキアムⅢ 卒業研究Ⅰ/Ⅱ 文化情報学実験・演習Ⅲ(A)/(B)
文化情報学実験・演習Ⅳ(A)/(B) プロジェクトⅢ/Ⅳ



文化情報学実験・演習Ⅰ/Ⅱ コロキアムⅡ 人間とコンピュータ 社会とコンピュータ データベースシステム ヒューマンコンピュータインタラクション 確率・統計 現象と数理Ⅰ/Ⅱ 時系列解析 社会調査法 定量的データ分析Ⅰ/Ⅱ 定性的データ分析Ⅰ/Ⅱ 意思決定の数理 e-ラーニング 人間の情報処理Ⅰ/Ⅱ 感性情報解析 翻訳解析 文献解析 文化記号論 文化解析Ⅱ 芸術解析 身体論 比較文化論 伝統文化論 文化財解析 音楽解析 映像解析 言語解析入門 基礎/応用多言語処理 数理言語学 言語行動論 ことばと認知 言語と脳科学 計量言語学 プロジェクトⅠ/Ⅱ

プログラミングⅠ/Ⅱ 情報倫理 データサイエンス入門 データサイエンス入門演習 データサイエンス基礎 知的所有権 プロジェクトスタディ入門 コロキアムⅠ コンピュータの仕組み インターネット技術 データサイエンス演習 人間と情報 情報基礎論 行動計量学 人間と文化 文化解析Ⅰ 文化情報学 トピックス1~6



世界の諸言語 ことばの科学 英語プレゼンテーション アカデミックリーディング アカデミックライティング 論理と数理 数学入門 数学基礎Ⅰ/Ⅱ 代数学 幾何学Ⅰ/Ⅱ 外国語科目 全学共通教養科目 保健体育科目 免許関連科目 学際科目 他学部設置科目 同志社女子大学単位互換科目 大学コンソーシアム京都単位互換科目

PICKUP

文法理論と計量分析

日本語の助詞「は」と「が」の使い分けや、格助詞の省略現象などの文法現象をデータベース化し、文法理論が、どれだけ妥当であるかを議論します。

担当 金 明哲 専門：テキストマイニング
沈 力 専門：言語学
星 英仁 専門：理論言語学・統語論

PICKUP

歴史遺産の調査による データ分析の実践

5~6人でグループを作り、グループ毎で京都市内と南山城の歴史遺産を調査し、それをデジタル解析して報告書にまとめます。フィールド調査を実験することで、情報の収集・データ化から分析までの技法を実践的に学びます。

PICKUP

非言語情報の計測

人間の物理的または文化的・社会的な外部環境に対するインタラクションを現象としてとらえ、非言語情報としての視覚情報や聴覚情報の計測を行い、いろいろな側面から解析します。

担当 片山 徹 専門：システム制御理論
浦部治一郎 専門：偏微分方程式(論)
杉本 裕二 専門：ヴァーチャル・リアリティ
下嶋 篤 専門：認知科学・数理論理学
杉尾 武志 専門：認知科学・物体認識

PICKUP

マルチメディア情報の 表現と処理の実習

テキストデータの並べ替えなどの処理、画像の特徴抽出や画像合成などの処理、音声情報の処理などの実験と演習を行います。さらに、図形・画像・動画・音声・音楽などを活用したマルチメディアコンテンツを作成します。

PICKUP

感性メディアの計量分析

絵画・音楽・舞踏などの感性情報を伝えるメディアを観察した上で、その表現・認知機構を明らかにするための計量分析の方法論を学びます。

担当 田口 哲也 専門：比較文化論
高橋 美都 専門：美学・音楽史
宿久 洋 専門：統計科学
阪田真己子 専門：身体メディア論・身体文化論

SEMINAR EXPERIMENT

文化情報学 実験・演習

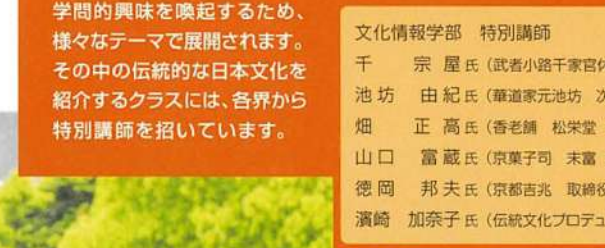
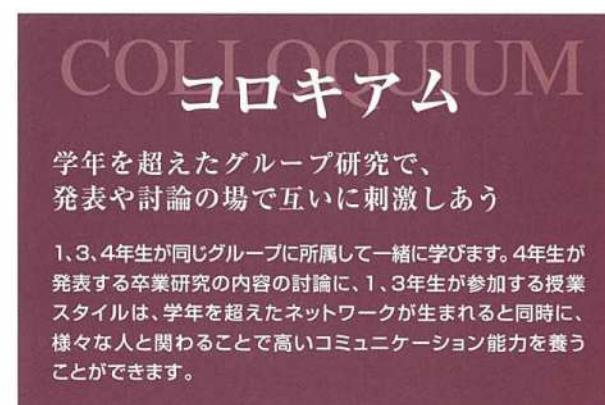
個性と実力をしっかり伸ばす、一人ひとりと向き合う少人数教育

教員と学生、そして学生同士が、より近い距離で学ぶ少人数制の実験・演習です。授業で習った知識を活用し、コンピュータによるデータの解析の技法を実践することで理解を深めていきます。

プロジェクト

専門分野が異なる複数の教員の指導で、一つのテーマを連携して共同研究

専門分野が異なる複数の教員が一つのテーマを担当し、学生と共同で研究を進めます。他大学や他学部の教員も含めた、それぞれの視点や方法論の違いに触れることができる、刺激的なカリキュラムです。



コロキアム
学年を超えたグループ研究で、発表や討論の場で互いに刺激しあう
1,3,4年生が同じグループに所属して一緒に学びます。4年生が発表する卒業研究の内容の討論に、1,3年生が参加する授業スタイルは、学年を超えたネットワークが生まれると同時に、様々な人と関わることで高いコミュニケーション能力を養うことができます。

トピックス
特別講師を招くなど様々な取り組みで、各分野の興味深いテーマについて研究
学問的興味を喚起するため、様々なテーマで展開されます。その中の伝統的な日本文化を紹介するクラスには、各界から特別講師を招いています。

文化情報学部 特別講師
千 宗 屋氏(武者小路千家官休庵 家元後嗣)
池 坊 由 紀氏(華道家元池坊 次期家元)
畑 正 高氏(香老舗 松栄堂 社長)
山 口 富 蔵氏(京菓子司 末富 社長)
徳 岡 邦 夫氏(京都吉兆 取締役専務 嵐山本店総料理長)
濱 崎 加奈子氏(伝統文化プロデュース「連REN」代表)

文化情報学部とは、
どのような学部ですか？

A この学部のキーワードは、“文化”と“データサイエンス”です。人文系の学問とデータ分析を中心とした自然科学系の学問の融合を図り、学問を多面的、総合的に捉えるという新たな研究・教育を試みます。

人文系と自然科学系の双方の知識や発想法を兼ね備えた人材の育成をはかりながら、「文化情報学」という新たな研究領域の開拓を進めます。

文化情報学部
Q&A

Q

数学が苦手で入学後が心配なのですが…

A 大丈夫です。この学部では、多様な能力を有し、文化事象に興味を持っている者を求めています。数学が苦手な方も、「数学入門」、「数学基礎Ⅰ」、「数学基礎Ⅱ」等を科目からしっかり学んで行けば心配ありません。在学生の成績から見ても、入学後しっかり勉強に励んだ学生が良い成績を残しています。

質問・相談
数学、プログラミング

Q

将来、どのようなところで活躍できるのですか？

A この学部の研究・教育を通じて身につく「文化」に対する新しい見方とコンピュータを使った情報分析力は、これからの社会で最も期待される能力です。柔軟な発想力をもつ卒業生は、企業、官公庁を問わずあらゆる分野で活躍することが期待されます。

Q

大学院に進学したい
のですが…。

A 2007年4月に大学院文化情報学
研究科を開設しました。この研究科
では、文化に関する新しい研究手法を
開発し、新たな学問分野を開拓する国際的に
活躍できる研究者や社会で起こる諸問題
に的確に対処することができる高度専
門職業人の養成を目指します。
また、文学研究科や理工学研究科
などに進むことも考えられる
でしょう。

質問・相談コーナー設置

数学、プログラミング、データサイエンス科目に関連する質問や相談を受け付けるコーナーを設けています。授業で理解できなかったところがあれば、このコーナーを利用するとよいでしょう。

文化情報学部

構成:1学科制(文化情報学科)
 開設:2005年4月
 学位:学士(文化情報学)
 定員:1学年250名
 教員:25名
 校地:京田辺校地



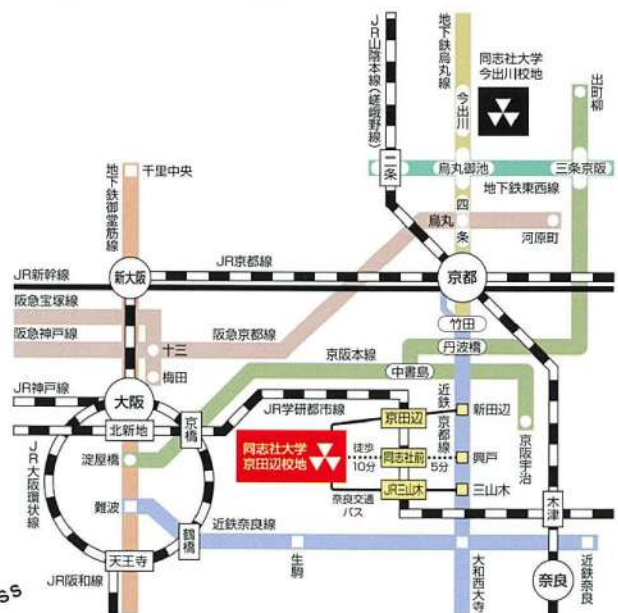
— FACULTY OF —
Culture and
Information
Science



DOSHISHA UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

同志社大学 文化情報学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3
[TEL]0774-65-7610 [FAX]0774-65-7618
[E-mail] jt-bnkJm@mail.doshisha.ac.jp
[ホームページ] <http://www.cis.doshisha.ac.jp/>



ACCESS

交通案内と所要時間の目安

大阪方面から JR環状線「大阪」から「京橋」へ約6分→JR学研都市線で「同志社前」へ約40分（快速利用）→徒歩約10分または、JR東西線「北新地」から「同志社前」へ約50分→徒歩約10分。
京都方面から 近鉄京都線「京都」から「興戸」へ約25分（京都～新田辺間急行利用）→徒歩約15分。
奈良方面から 近鉄奈良線「大和西大寺」乗り換え、近鉄京都線「興戸」へ約25分→徒歩約15分。